

保育理念		安全・安心な保育環境のもと「たくましく生きる力・学びに向かう力」を育む	
保育方針		「子どもの主体性が育つ保育」	
保育目標		『安全・安心』『健康な心と体』『豊かな感性』『のびのびと自己を表現する』『伝え合う』『ともに育ち合う』	
重点目標		子どもと保育者が共に創るカラフルな保育をめざして	
項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価・課題
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・乳) 月1回以上、子どもの自己肯定感を育める職員の関わり方について話し合う。 ・幼) 2か月に1回の写真配信の中で子どもの愛しい姿を伝え保護者、職員間で子どもの育ちを共有し合い、愛情が育まれていくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳) 施策通り行えた。生活面の職員の付き方の見直しをすることができ、より愛着関係の構築に繋げていった。 ・幼) 配信の目標は達成した。しかし、それを介しての保護者や職員間の語り合いは意識を向けることができなかった。 ・保護者アンケートにおいて、肯定的な回答(満足している・おおむね満足している)が100%であった。
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・乳) 素材に触れる遊びを通して、感性の育ちを大切に保育実践を行うため、週1回の乳児会議を行う。育ちを写真掲示や動画にして保護者に発信したり、職員研修に用いたりする。 ・幼) 教材準備や環境の再構成を職員間で共有し合うために、ウェブマップを活用した話し合いを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳) 施策通り行い、年間を通して素材の遊びを深めることができた。取り組んできたことを動画やウェブマップなどの記録に残し振り返ることができたため、次年度に活かしたい。 ・幼) 保育者一人一人が子どもの姿から興味を持った遊びの展開を行った。10月より異年齢より学年の遊びを構成することを重視した。そのことで遊びを見つけにくい子どもが遊びを見つけやすくなった。また、子どもや学年でのカラー出た。
	ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修を年1回以上行い学び合う。また、人権に関する事象を捉えて、その都度職員間で話し合う機会を持つ。 ・幼) 毎日1回はサークルタイムを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策通り行った。所外の研修で学んできたことを共有する場を持たせた。 ・幼) 子ども同士が互いの思いを伝えられるよう保育を行った。サークルタイムの持ち方についての研究は課題がある。
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・乳) 室内外の環境や遊具の組み方の工夫をする。積極的に遊戯室でリズム遊びを行っていく。 ・幼) リズム遊びを計画的に行う。週に1回以上は遊戯室でクラス皆で体を動かす場を持つ。 ・幼) 『ほけんの話』保健指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乳) 計画通り行った。年度途中より、遊戯室の遊具の組み方や遊びは、パターン化せずにその時期や発達に応じたものを考えるようにした。 ・幼) リズム遊びは重点的に行う動きを幼児間で共有して取り組めた。園外で体を動かすことも意識した。 ・看護師が配置された後半は、子どもの姿に応じた保健指導を行うことができた。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いての研修会を年1回行う。 ・『学びの芽』の動画作成を行う。 ・乳) 『素材を使った遊び』において、ウェブマップや動画の作成などを通して研究を深める。 ・幼) 撮影した動画をもとに読み取りを行い、保育観の共有や今後の遊びの展開を考察し合う。(担任1人につき半年に1回) ・にじいる保育の巡回相談とのカンファレンスや、WEBでの研修はできるだけ多くの職員が参加し、専門的な知識の向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標以外にも市内外からの視察が多くあり、その際に保育について語り合うことで保育について振り返り実践に繋げることに繋がった。 ・学びを捉える動画に添える言葉を、保育指針や伊丹市の保育の道しるべ等を活用して研究することができた。 ・乳) 今年度取り組む研究内容が明確であったため、乳児職員皆で意欲的に取り組めた。 ・幼) 年度の前半は施策通り行った。後半は実際に互いの保育を見合う研修が有意義であった。 ・時間の確保にかなりの工夫が必要であったが、学びの場を共有することで、子どもへの関わり方を一貫しやすくなった。
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・職員それぞれの得意な点を活かした、職務分掌を行う。 ・環境構成や研修・事務ができるよう、日毎・時間単位の職員配置の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重点目標にもあるように職員も自分のカラー(良さ)を活かして働ける運営を心掛けた。 ・全職員での意識の統一や話し合い、連携、工夫がより必要である。
開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回以上のこどもだより(幼児)や月に1~2度の個人写真付きの連絡ノートで子どもの様子を伝えることに努める。 ・月に1~2度、日々の遊びの様子や園外保育、クッキングなど行事の様子を動画で配信を行う。 ・ホームページで保育について月に2回、食育を月に1回発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策通り行えた。しかし、保護者アンケートにおいて乳児の方が肯定的な回答率が若干低かった。動画の配信が幼児より少ないことが要因かもしれない。動画や写真以外にも保護者とコミュニケーションをより図ってみたい。 ・ホームページでの発信が遅れていることがあるので、各担当が期限を守って発信していく。
	小学校との接続	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学校へ行き、学校生活を知る機会をもつ。 ・公開保育や接続期地域部会の場合、小学校教諭との交流を行い、所内の保育について発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策通り行い達成した。 ・接続期の研修に積極的に参加して保育に活かした。地域部会では伊丹市接続期カリキュラムを通した事例を発信した。
	地域交流 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・支援をいただいている地域の方や『畑の先生』『町の先生』と交流を図り、子どもが様々な世代や職種の方と関わりが持てるようにする。 ・ホームページ等で園庭開放の開催日程を知らせ、参加者に様々な園情報を随時発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『畑の先生』には子どもだけでなく保育者の知識も高めてもらった。また保育の中で、地域散策の際に地域の方と関わりを持つことができた。 ・園庭開放では、前年度より参加数が増えた。
備考		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園(保育所、こども園、児童発達支援センター)で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。 	
次年度に向けた重点的な改善点 今後取り組むべき重点的な課題		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの資質・能力を育むための豊かな保育環境の構成 ・園内研修・研究の充実(子どもの姿の読み取り・保育計画の共有・教材研究・生活面) ・人材育成(若手職員の育成) ・業務改善(残業を減らすための仕組みづくり) 	